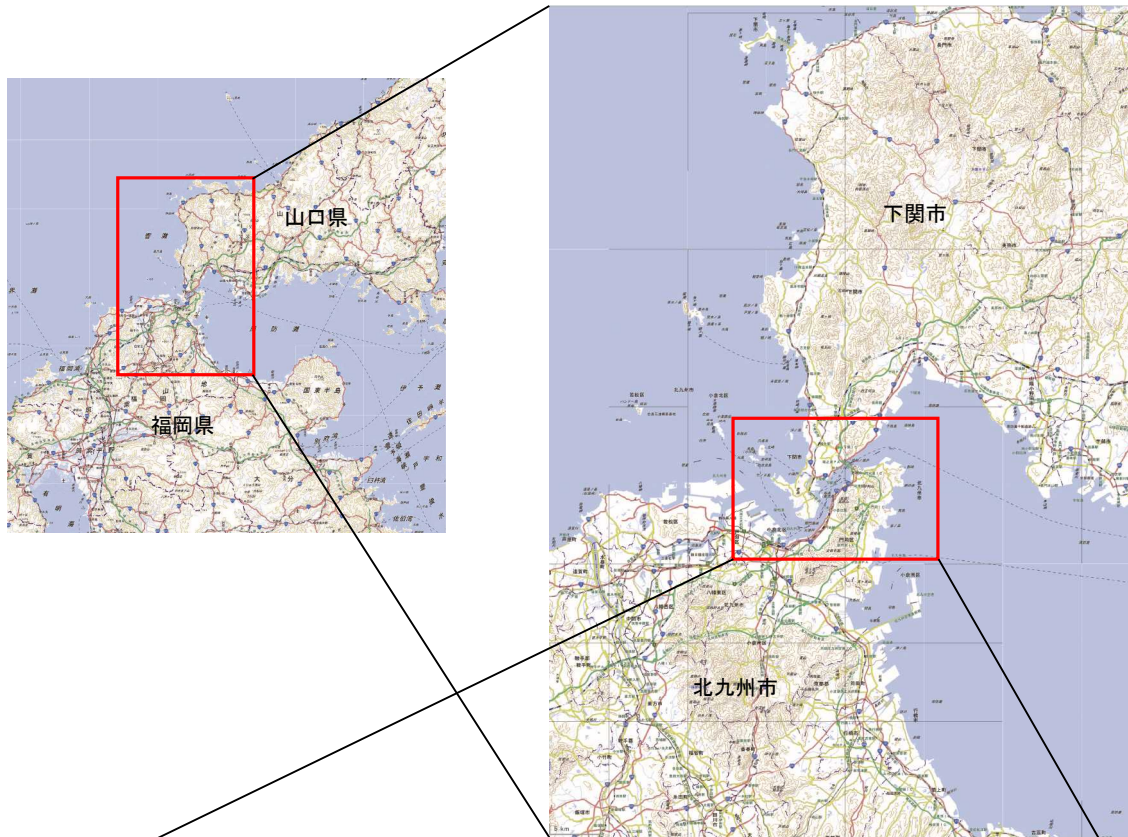


① 申請者	◎北九州市 下関市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
関門“ノスタルジック”海峡 ～時の停車場、近代化の記憶～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>古来より陸上・海上交通の要衝であった関門地域は、幕末の下関戦争を契機とした下関・門司両港の開港以降、海峡の出入口には双子の洋式灯台が設置され、沿岸部には重厚な近代建築が続々と建設された。</p> <p>狭隘な海峡を外国船が行き交う景観の中、日本が近代国家建設へ向け躍動した時代のレトロな建造物群が、時間が停止したかのように現在も残されている。渡船や海底トンネルを使って兩岸を巡れば、まるで映画のワンシーンに紛れ込んだような、ノスタルジックな街並みに出会うことができる。</p>			
 <p>夜の門司港の景観</p>		 <p>関門鉄道トンネル (上：内部、下：門司側入口)</p>	
 <p>門司港駅（重要文化財）</p>		 <p>南部町郵便局と旧秋田商會ビル</p>	
		 <p>旧下関英国領事館（重要文化財）</p>	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	北九州市 市民文化スポーツ局 文化企画課 文化財係 松本治二、成政景司、立野康志郎		
電 話	(093) 582-2391	FAX	(093) 581-5755
E-mail	shi-bunkakikaku@city.kitakyushu.lg.jp		
住 所	〒803-8501 北九州市小倉北区城内1番1号		

市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）





エリア①

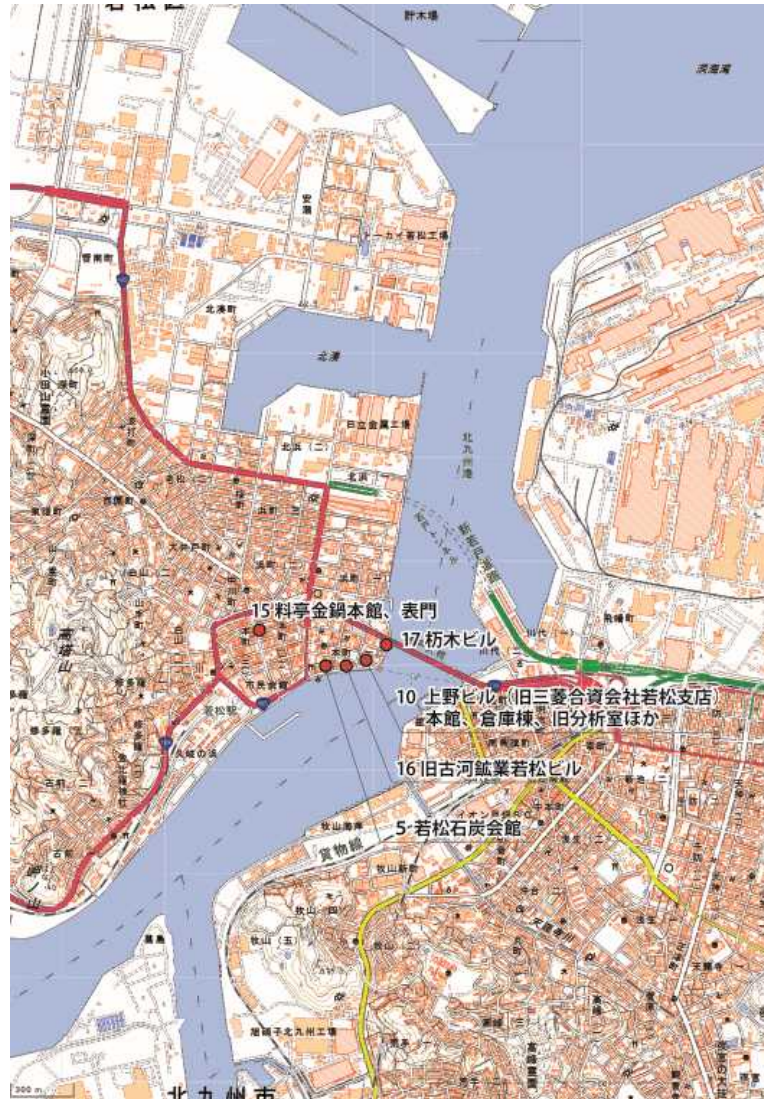


エリア②





エリア③



## ストーリー

関門地域を空から見下ろすと、本州と九州とが互いに手を伸ばし、今にも陸続きになりそうな地形が目に入ります。海峡を挟んだ両岸からは、山々が海にせり出すように対峙し、そこからは大型のタンカーや旅客船が途切れることなく往来する海峡景観とレトロな近代建築が建ち並ぶ街並みを望むことができます。

関門海峡沿岸は、明治から昭和初期にかけて共に急速な発展を遂げ、当時最先端の意匠と技術で建てられた近代建築が現代の街並みの中で大切に残されています。密接な交通網で結びついた海峡兩岸の港町は、渡船や海底トンネルを使って気軽に巡ることができます。

### ●関門海峡の歴史地理的位置

古代以来、官道や主要な街道は関門の地で結びつき、多くの人や物資の交流が行われてきました。瀬戸内海と日本海との結節点でもある関門海峡は、陸路と海路の十字路を形成し、幕末には外交や通商を迫るため、西洋諸国の黒船も通過するようになります。

その重要性を理解していた長州藩の志士は、海峡を封鎖し攘夷を実行しました。これを契機に下関戦争が起こり、日本が開国へと舵を切り、歴史の潮流を変えるターニングポイントとなったのです。

### ●国際港湾都市「関門港」の開港と発展

下関戦争で大敗した長州藩は、元治元（1864）年、講和使節に高杉晋作を任命して講和を成立させ、下関港は事実上、開港しました。

海外との玄関口となった関門海峡には、幕府が英国との間で締結した大坂条約（慶応3＝1867年）により洋式灯台が設置されることになりました。ブラントン率いる英国人技術者集団が海峡西側の<sup>むつれしま</sup>六連島灯台と東側の<sup>へさき</sup>部埼灯台を設計し、ともに1872年に初点灯され、日本の文明開化と関門海峡を照らし始めたのです。この双子の洋式灯台の灯に導かれて、江戸時代から北前船の寄港地であった下関港と、背後に筑豊炭田という石炭の一大供給地と若松という石炭中継地を抱えた門司港は、共に特別輸出港や大陸との定期航路の寄港地に指定され、国際港湾都市として一躍注目を集めることとなります。そのきっかけは、明治8年（1875）の横浜・神戸－上海間定期航路の就航であり、



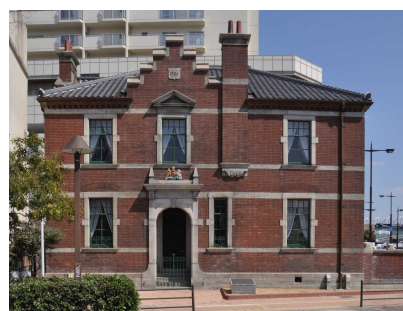
空から見た関門海峡



下関戦争によって占拠された  
長州藩前田砲台



<sup>むつれしま</sup>  
六連島灯台（上）と  
<sup>へさき</sup>  
部埼灯台（下）



旧下関英国領事館



その後、朝鮮との貿易港指定を契機に、創業間もない大阪商船株式会社や日本郵船株式会社が進出しました。明治22年（1889）には九州鉄道の開通にともなって門司駅（現門司港駅）が設置され、陸上と海上運輸の集散地として賑わうようになります。

関門地域の国際的な重要性を逸早く見出した駐日英国公使アーネスト・サトウの提案により、明治34年（1901）、下関に英国領事館が開設され、その5年後には煉瓦造の下関英国領事館が建てられます。これをきっかけに、明治後期から大正にかけて日本銀行をはじめとする金融、三菱や三井などの商社、鈴木商店の資本による食品工場群などの拠点が続々と関門海峡沿いに開設され、重厚な構造かつ当時最先端の意匠をもった近代建築が林立する街並みが形成されていきました。

また、この地域では、伊藤博文が春帆楼においてフグ食を解禁して以来、フグ刺しや鍋、唐揚げ、白子、鰯酒など様々なフグの食べ方を通して地元では幸福をもたらす「ふく」料理と呼ばれて親しまれているほか、海外航路の拡大に伴い、台湾から大量に輸入されたバナナの叩き売りはこの地域の名物となり、現代に伝えられています。

### ●「海峡七路」の完成

昭和に入り、海峡の兩岸を海底で結ぶ関門鉄道トンネルの建設が計画され、昭和17年（1942）に下り線が、同19年（1944）年に上り線が開通します。この世界最初の海底トンネルの完成により、文字どおり「関門」として立ち塞がっていた海峡が、陸路によって突破されました。その後、車道・人道トンネルの開通、さらに関門橋の架橋により、関門海峡に「<sup>かいきょうしちろ</sup>海峡七路」と称される多様な交通網が完成します。それまで陸上と海上交通の結節点としての役割を担ってきた関門地域は、本州－九州間の通過点となり、明治から昭和初期にかけての重厚な近代建築群がまるで時が止まったかのように残ることになりました。

### ●関門“ノスタルジック”海峡 ～時の停車場、近代化の記憶～

関門海峡には、外国船がもたらした舶来文化が根付き、狭い海峡を外国船が行き交う景観の中に、日本が近代国家建設へ向け躍動した時代のレトロな建造物群が現在も大切に残されています。「海峡七路」を使って兩岸を巡れば、まるで映画のワンシーンに紛れ込んだような、ノスタルジックな街並みに出会うことができます。



旧サッポロビール九州工場醸造棟



北九州市旧大阪商船



ふくの薄造り（上）と  
バナナのたたき売り（下）



下関市唐戸地区の街並み

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の 所在地(※4)
1	むつれしまとうだい 六連島灯台	市有形文化財 (建造物)	大坂条約の約定に基づき関門海峡西端に設置された洋式灯台で、「お雇い外国人技師」R. H. ブラントン設計。白御影石造。旧暦明治4年11月(西暦1872年1月)初点灯。	山口県 下関市
2	へさきとうだい 部埼灯台	未指定 (建造物)	旧暦明治5年1月(西暦1872年3月)初点灯。関門海峡東端に設置された六連島灯台とほぼ同設計、同時期に設置された双子灯台。	福岡県 北九州市
3	きゅうしゅうてつどうきねんかん 九州鉄道記念館 きゅうきゅうしゅうてつどうほんしゃ (旧九州鉄道本社)	国登録 (建造物)	明治21年(1888)に設立された九州鉄道本社屋。明治24年(1891)竣工。石炭産出地筑豊と門司港を繋ぐ輸送手段として港湾と連携して発展した。	福岡県 北九州市
4	しものせきなべちようゆうびんきょくちようしゃ 下関南部町郵便局庁舎 きゅうあかまがせきゆうびんでんしんきょく (旧赤間関郵便電信局)	国登録 (建造物)	現存最古の現役郵便局舎。煉瓦造2階建。明治33年(1900)竣工。金融業とともにいち早く整備された通信事業を語る施設。	山口県 下関市
5	わかまつせきたんかいかん 若松石炭会館	未指定 (建造物)	若松石炭商同業組合の事務所として建設された、当時最新式の洋風建築。明治38年(1905)竣工。木造2階建。平坦な壁面は目地を多用し、石造風の表情が与えられている。石炭積み出し港若松の歴史を象徴する建物。	福岡県 北九州市
6	きゅうしものせきえいこくりょうじかん 旧下関英国領事館	国重要文化財 (建造物)	下関に設置された英国領事館施設として、明治39年(1906)に建設された煉瓦造の建物。	山口県 下関市
7	きゅうみやざきしょうかん 旧宮崎商館	国登録 (建造物)	石炭輸出業を営む宮崎儀一が事務所として建てた商館。煉瓦造2階建。明治40年(1907)竣工。	山口県 下関市
8	きゅうもじぜいかん 旧門司税関	未指定 (建造物)	門司税関発足を機に、明治45年(1912)に建設された税関庁舎。昭和初期まで税関庁舎として使用。	福岡県 北九州市
9	きゅう 旧サッポロビール九州工場 じむしょう じょうぞう ぐみあいとう そうこ 事務所棟、醸造棟、組合棟、倉庫	国登録 (建造物)	明治45年(1912)設立の「帝国麦酒株式会社」の工場施設。門司大里地区の保税機能を持つ食品加工工場群の代表的施設。事務所棟、醸造棟は大正2年(1913)竣工。	福岡県 北九州市



10	<small>うえの</small> <b>上野ビル</b> <small>きゅうみつびしごうしがいいしやわかまつしてん</small> (旧三菱合資会社若松支店) <small>ほんかん そうこう きゅうぶんせきしつ</small> 本館、倉庫棟、旧分析室ほか	国登録 (建造物)	筑豊からの石炭販売、運送業を担った三菱合資会社の社屋。本館は煉瓦造 3 階建。倉庫棟は煉瓦造 2 階建。旧分析室は木造平屋建。大正 2 年 (1913) 竣工。	福岡県 北九州市
11	<small>もじこうえき きゅうもじえき ほんや</small> <b>門司港駅 (旧門司駅) 本屋</b>	国重要文化財 (建造物)	九州鉄道の起点として明治 24 年 (1891) に開業した門司駅の 2 代目駅舎。木造モルタル塗 2 階建。大正 3 年 (1914) 竣工。	福岡県 北九州市
12	<small>きゅうあきたしょうかい</small> <b>旧秋田商会ビル</b> <small>しものせきかんこうじょうほう</small> (下関観光情報センター)	市有形文化財 (建造物)	木材や食料、薪炭などを海外に輸出する商社の社屋兼住居。ドーム形屋根を持つ塔屋及び屋上庭園が特徴。大正 4 年 (1915) 竣工。	山口県 下関市
13	<small>みつびしじゅうこうかぶしがいいしやしものせきぞうせんしよ</small> <b>三菱重工株式会社下関造船所</b> <small>だいだい</small> 第 3 ドック、第 4 ドック	未指定 (建造物)	大正 3 年 (1914) 山口県下関市彦島に設立した造船所。第 3 ドックは大正 11 年 (1922) 竣工の石造。第 4 ドックは大正 5 年 (1916) 竣工のコンクリート造。	山口県 下関市
14	<small>きたきゅうしゅうしきゅうおおくあしやうせん</small> <b>北九州市 旧大阪商船</b>	国登録 (建造物)	門司港を大陸航路の拠点とした大阪商船の社屋。煉瓦枠コンクリート造 3 階建。大正 6 年 (1917) 竣工。	福岡県 北九州市
15	<small>りやうていきんなべほんかん おもてもん</small> <b>料亭金鍋本館、表門</b>	国登録 (建造物)	港湾と鉄道整備に伴って拡大した若松の市街地において、明治、大正期から営業していた多くの料亭の中でも著名な店の一つ。経済人や文化人が集った場所として広く知られる。本館は木造 3 階建。大正 6 年頃 (1917) 竣工。	福岡県 北九州市
16	<small>きゅうふるかわこうぎやうわかまつ</small> <b>旧古河鉱業若松ビル</b>	国登録 (建造物)	筑豊炭田で産出された石炭の中継地として活況を呈した若松を代表する洋風建築物。煉瓦造 2 階建。大正 8 年 (1919) 竣工。	福岡県 北九州市
17	<small>とちき</small> <b>朽木ビル</b>	未指定 (建造物)	造船と船舶代理業を行う朽木商事の本社ビル。当時としては珍しい半地下室、自家用浄化槽等を備える鉄筋コンクリート造 3 階建。大正 9 年 (1920) 竣工。	福岡県 北九州市
18	<small>やまぐちぎんこうきゅうほんてん</small> <b>山口銀行旧本店</b>	県有形文化財 (建造物)	明治 9 年 (1876) 関門地域に進出した三井銀行下関支店。昭和 8 年 (1933) の百十銀行本店を経て、19 年 (1944) ～40 年 (1965) まで山口銀行本店として使用された。コンクリート造 2 階建。大正 9 年 (1920) 竣工。	山口県 下関市
19	<small>きゅうかねの つるみさきとうだい</small> <b>旧金ノ弦岬灯台</b>	市有形文化財 (建造物)	明治 4 年 (1871) に設置された関門海峡の礁標を移築した灯台。石造。大正 9 年 (1920) 竣工。平成 12 年 (2000) に廃止されるまで、関門航路を照らした。	山口県 下関市

20	きゅうもじみついくらぶほんかんふぞくや 旧門司三井倶楽部 本館、附属屋	国重要文化財 (建造物)	門司に進出した商社、三井物産門司支店が接客、宿泊用に建設した施設。木造 2 階建。大正 10 年 (1921) 竣工。大正期の近代化を示す建物。	福岡県 北九州市
21	いわたけじゅうたくおもやどぞう 岩田家住宅 主屋、土蔵	市有形文化財 (建造物)	岩田家は、明治 32 年 (1899) から門司港地区で酒類販売を行った。木造 2 階建。大正 10 年 (1921) 上棟。	福岡県 北九州市
22	きゅうていしんしょうしものせきゆうびんきょくでんわかちょうしや 旧通信省下関郵便局電話課庁舎	市有形文化財 (建造物)	大正中期から後期にかけ急増した通信需要に応えるため、下関に設置された郵便局電話課の庁舎。鉄筋コンクリート造 3 階建。大正 13 年 (1924) 竣工。	山口県 下関市
23	もじこうじょうせいぞうじょう ニッカウキスキー(株)門司工場製造場 (旧大里酒精製造所 製造場)	未指定 (建造物)	鈴木商店資本の食品工場群を構成した酒類製造工場施設の一部。煉瓦造平屋建。大正 14 年 (1925) 竣工。	福岡県 北九州市
24	もじこうじょうそうこ ニッカウキスキー(株)門司工場 倉庫 (旧大里製粉所 倉庫)	未指定 (建造物)	鈴木商店が明治の末に起業し、大正期を通じて操業した製粉工場倉庫。煉瓦造平屋建。	福岡県 北九州市
25	はちや 蜂谷ビル きゅうとうようほげいかぶしがいいしものせきしてん (旧東洋捕鯨株式会社下関支店)	国登録 (建造物)	日本の捕鯨事業の中核を担った東洋捕鯨株式会社下関支店の社屋。煉瓦造 2 階建。大正 15 年 (1926) 竣工。	山口県 下関市
26	もじゆうせん 門司郵船ビル にほんゆうせんもじしてん (日本郵船門司支店)	未指定 (建造物)	門司港駅 (旧門司駅) の正面に位置し、鉄道と運輸が直結した立地にある日本郵船門司支店ビル。鉄筋コンクリート造 4 階建。昭和 2 年 (1927) 竣工	福岡県 北九州市
27	きゅうだいれんこうろうわや 旧大連航路上屋	未指定 (建造物)	中国・大連をはじめ、世界を結ぶ航路の中核として、建てられた国際旅客ターミナル。昭和 4 年 (1929) 竣工。	福岡県 北九州市
28	もじくやくしよ 門司区役所 きゅうもじやくしよ (旧門司市役所)	国登録 (建造物)	門司港と門司港駅を見下ろす丘の上に立つ旧門司市庁舎。近代的な外観デザインを有し、関門港の発展を見守ってきた「モダンな庁舎」鉄筋コンクリート造 3 階建。昭和 5 年 (1930) 竣工。	福岡県 北九州市
29	かんもん 関門ビル きゅうかんもんきんせんかぶしがいいしや (旧関門汽船株式会社)	未指定 (建造物)	門司港―唐戸間の連絡船などを運航する関門汽船が建設した、数少ない戦前の事務所ビル。鉄筋コンクリート造 5 階建。昭和 6 年 (1931) 竣工。	山口県 下関市
30	さんざろう 三宜楼	未指定 (建造物)	経済発展を遂げた関門港を代表する大型旅館。現存九州最大の木造 3 階建。昭和 6 年 (1931) 竣工。	福岡県 北九州市
31	ちゅうごくろうどうきんこしものせきしてん 中国労働金庫下関支店 きゅうふどうちよきんぎんこうしものせきしてん (旧不動貯金銀行下関支店)	未指定 (建造物)	下関側の銀行街に建てられた、画期的な免震基礎を持つ旧不動貯金銀行下関支店。鉄筋コンクリート 3 階建。昭和 9 年 (1934) 竣工。	山口県 下関市



32	きたきゅうしゅうぎんこう も じ してん 北九州銀行門司支店 きゅうよこはましょうぎんぎんこう も じ してん (旧 横浜正金銀行門司支店)	未指定 (建造物)	貿易融資や外国為替を専門に扱った横浜正金銀行の支店。鉄筋コンクリート造 2 階建。昭和 9 年 (1934) 竣工。	福岡県 北九州市
33	ふじわらよしえきねんかん 藤原義江記念館 きゅう てい (旧 リンガー邸)	国登録 (建造物)	明治 23 年 (1890) 頃から進出した外国系商社ホーム・リング商会の代理店である瓜生商会が、支配人子息、M・リンガーのために海峡を一望する高台に建てた住宅。一時英国領事の住居としても利用された。鉄筋コンクリート造 3 階建。昭和 11 年 (1936) 竣工。	山口県 下関市
34	きゅう きゅうしゅうほんしゃ 旧 J R 九州 本社ビル	未指定 (建造物)	門司港に進出した三井物産の三代目にあたるオフィスビル。門司における近代化のプロセスを示す合理主義に基づいた建造物。昭和 12 年 (1937) 竣工。	福岡県 北九州市
35	にっしんこうわきねんかん 日清講和記念館	国登録 (建造物)	明治 28 年 (1895) の日清講和会議の舞台となった春帆楼の敷地に建つ記念館。講和会議の関係資料を展示する。昭和 12 年 (1937) 竣工。	山口県 下関市
36	かんもんずいどう 関門隧道下り線 かんもんずいどう 関門隧道上り線	未指定 (建造物)	下り線は昭和 17 年 (1942)、上り線は昭和 19 年 (1944) に開通した世界初の海底鉄道トンネル。海底トンネルの開通で初めて下関と門司が地続きとなった。「海峡七路」の先駆け。	福岡県 北九州市/ 山口県 下関市
37	せかいへいわ 世界平和パゴダ	未指定 (建造物)	昭和 33 年、国内唯一の本格的ミャンマー式寺院として門司の和布刈公園内に建立。国際都市門司の地で日本とミャンマーの親善を記念する建造物として、地域のランドマークとなっている。	福岡県 北九州市
38	しょうかい ホーム・リング商会	未指定 (建造物)	下関の瓜生商会が代理店を務めたホーム・リング商会の社名を継ぎ、昭和 26 年 (1951) に設立した船舶関係の代理店事務所。昭和 37 年 (1962) 竣工。	福岡県 北九州市
39	しものせきえき しんれい 下関駅の振鈴	未指定 (有形民俗)	下関駅の前身となる、明治 34 年 (1901) の山陽鉄道馬関駅の開業当初から、振鈴が鳴り響き、列車の発着を知らせた。下関駅の振鈴は、現代にその音色を伝える数少ない例で、現存最古級。	山口県 下関市
40	たた う バナナの叩き売り	未指定 (無形民俗)	日本郵船による台湾航路が確立したことにより、安定して大量のバナナが関門港に輸入されるようになった。軽妙な売り口上による、露天取引は、「バナナの叩き売り」として定着し、現在も、関門の風物詩となっている。	福岡県 北九州市/ 山口県 下関市

41	りょうり フグ料理	未指定 (無形民俗)	伊藤博文が明治 21 年 (1888) にフグ食を解禁して以来、地域の近代化とともに、郷土の代表的味覚として、多様な食文化を形づくっている。また、素材のフグは、地元では「福」に通じる「ふく」と呼ばれ、親しまれる存在となっている。	福岡県 北九州市/ 山口県 下関市
42	ちょうしゅうはんしものせきま えだ だ い ばあと 長 州 藩 下 関 前 田 台 場 跡	国史跡	元治元年 (1864) の下関戦争で四国連合艦隊陸戦隊に占拠された砲台跡。従軍写真家により撮影された写真に基づくイラストとともに、広く海外に報道され、近代化へのターニングポイントとなった。	山口県 下関市

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること (例: 国史跡、国重文 (工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること (単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること (複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。



## 構成文化財の写真一覧

1 六連島灯台



2 部埼灯台



3 九州鉄道記念館  
(旧九州鉄道本社)



4 下関南部町郵便局庁舎  
(旧赤間関郵便電信局)



5 若松石炭会館



6 旧下関英国領事館



7 旧宮崎商館



10 上野ビル (旧三菱合資会社若松支店)



8 旧門司税関



11 門司港駅 (旧門司駅) 本屋



9 旧サッポロビール九州工場  
事務所棟、醸造棟、組合棟、倉庫



12 旧秋田商会ビル  
(下関観光情報センター)





13 三菱重工株式会社下関造船所  
第3ドック、第4ドック



16 旧古河鉱業若松ビル



14 北九州市旧大阪商船



17 朽木ビル



15 料亭金鍋本館、表門



18 山口銀行旧本店





19 旧金ノ弦岬灯台



22 旧逓信省下関郵便局電話課庁舎  
(下関市立近代先人顕彰館田中絹代記念館)



20 旧門司三井倶楽部 本館、附属屋



23 ニッカウキスキー(株)門司工場 製造場  
(旧大里酒精製造所 製造場)



21 岩田家住宅 主屋、土蔵



24 ニッカウキスキー(株)門司工場 倉庫  
(旧大里製粉所倉庫)



25 蜂谷ビル  
(旧東洋捕鯨株式会社下関支店)



28 門司区役所 (旧門司市役所)



26 門司郵船ビル  
(日本郵船門司支店)



29 関門ビル  
(旧関門汽船株式会社)



27 旧大連航路上屋



30 三宜楼





31 中国労働金庫下関支店  
(旧不動貯金銀行下関支店)



34 旧 J R 九州本社ビル



32 北九州銀行門司支店  
(旧横浜正金銀行門司支店)



35 日清講和記念館



33 藤原義江記念館  
(旧リンガー邸)



36 関門隧道下り線  
関門隧道上り線



37 世界平和パゴダ



40 バナナの叩き売り



38 ホーム・リンガー商会



41 フグ料理



39 下関駅の振鈴



42 長州藩下関前田台場跡

